会 議 録

会議の名称	令和7年度第1回西東京市介護保険運営協議会
開催日時	令和7年8月5日（火曜日） 午後7時から午後8時30分まで
開催場所	西東京市役所 田無第二庁舎4階会議室
出席者	（出席委員）渡邊委員長、梶川副委員長、岡田委員、伊集院委員、尾林委員、 内田委員、大澤委員、花坂委員、森委員、佐藤委員、 篠宮委員、小口委員、奥井委員、加瀬委員、松本委員、 （欠席委員）藤井委員、立川委員 （事務局） ささえあい・健康づくり担当部長、高齢者支援課長、 介護保険担当課長、以下10人
議題	(1) 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第10期）の策定について (2) 認知症施策推進計画について (3) 計画策定に係るアンケート調査の概要について (4) その他
会議資料の名称	資料1 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第10期）の策定について 資料2 （仮称）西東京市認知症施策推進計画について 資料3 計画策定に係るアンケート調査の概要について
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録

会 議 内 容

1 開会	
2 諮問	
3 議題	<p>（1）高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第10期）の策定について</p> <p>○事務局：</p> <p>高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第10期）の策定について、資料1に基づき説明。</p> <p>○委員：</p> <p>1ページの西東京市版地域包括ケアシステムを示した図の中で、介護の枠内の施設・居住系サービスに介護老人保健施設が抜けているのではないか。</p>

○事務局：

例示を列挙している図であるため、記載されていないサービスがあることをご理解いただきたい。

○委員：

2ページの計画策定スケジュールの中で、令和8年度に地域包括支援センターや団体等のヒアリング調査を実施すると記載があるが、具体的にどのような団体にヒアリング調査を実施するのか教えていただきたい。

○事務局：

第9期計画策定時においては、認知症カフェ、サロン活動団体、ささえあい訪問協力員、権利擁護センター「あんしん西東京」、百歳体操グループなど、市内で高齢者への支援等を行っている事業所、NPO法人、市民団体等に対してグループインタビューを実施している。

(2) 認知症施策推進計画について

○事務局：

認知症施策推進計画について、資料2に基づき説明。

○委員：

認知症支援コーディネーターの取組みについて教えていただきたい。

○事務局：

地域包括支援センターが把握している認知症でお困りになられている方のケースについて、関係機関との会議等を通じて、医療機関への受診や認知症初期集中支援チーム事業に繋げるなど、適切な医療・介護サービスを受けられるよう支援している。また、事業所からも認知症に関する相談を受けており、同様に適切なサービス等に繋がるように必要な支援を行っている。

○委員：

計画で明記されている点もあるが、冊子等啓発物にも取組について明記し、市民の方がより支援を活用できるよう周知を図っていく必要があると考えている。

(3) 計画策定に係るアンケート調査の概要について

○事務局：

計画策定に係るアンケート調査の概要について、資料3に基づき説明。

○委員：

高齢者生活状況調査は民生委員の活動に絶対に必要な調査である。前回までは対象者に郵送で配布し、民生委員の訪問により回収を行っており、回収の際に本人の健康状態や安否の確認、地域包括支援センターに繋ぐこと等に活用されていた。また、調査の実施にあたっては、調査方法等を事前に民生委員児童委員協議会と協議する必要があったのではないかと。

○事務局：

委員のご指摘のとおり、当調査は民生委員にとって重要な調査である。回収方法については、件数も多いことから基本的に郵送による回収となるが、未回答者については、民生委員による訪問、状況確認をお願いさせていただき予定である。また、調査で得られた情報は民生委員にご提供し、訪問等の際の基礎資料としていただきたいと思いますと考えている。引き続き、丁寧に協議しながら進めていきたいと考えている。

○委員：

現在、身寄りのない高齢者の方々の支援は大きな社会課題として挙げられている。医療機関調査では、「身寄りのない高齢者について」、「ACPの実践」が調査項目にあるが、これらは意思表示できる段階から備えることも重要であり、高齢者本人に対する調査においても聞いてみる必要があるのではないかと。

○委員長：

本日出た意見も踏まえ、次回の協議会では、実際に調査票案を確認していただくと思うので、改めてご意見をいただきたい。

(4) その他

①各委員からのコメント

○委員：

日ごろから子どもの居場所づくりを行っている。4月から「そんぽの家」を提供していただき、高齢者と子どもが接する機会を作っている。利用している高齢者にとっても、子どもたちとの交流が、普段よりも良い刺激となっており、触れ合うことが大事であると感じている。

民生委員としても活動してきた中で、「高齢者生活状況調査」については、やらなくても良いのではないかと思う反面、訪問した方が元気にされている様子を伺えることが励みになっているため、引き続き調査方法等をご検討いただきたい。

○委員：

民生委員として活動しているが、訪問する方の中には、自分から集いに参加できない方も多い。高齢者生活状況調査の際に、3年に1回の訪問でも堰を切ったようにお話しされる方

もいるため、調査による訪問は意味のあるものだと感じている。

○委員：

認知症の方は、出来ることと出来ないことがあると思うが、出来ることを長く、自分らしく人生を過ごせるようにサポートしていくためにも、今後も勉強していきたい。

○委員：

仕事柄、インフォーマルサービスに協力していただきながら活動している。高齢者支援課には「街中いこいなサロン」の支援だけではなく、様々な団体を繋ぐ取組みを期待したい。活動が繋がる必要があるとあり、高齢者の方々が介護状態に陥らないような生活が送れるような地域づくりを目指したい。

○委員：

民生委員に協力してもらえよう、普段からの連携体制の構築を期待したい。

○委員：

短期集中予防サービスを通じてリエイブルメントを進めているが、もっと市民、事業者とも連携していく必要があると感じている。また、身寄りのない方の保証・支援体制の構築も課題である。地域包括支援センターとして、地域の方をどのようにケアマネジメントしていくか、インフォーマルサービスに繋げるかを考えており、当協議会とも連携しながら考えていきたい。

○委員：

ケアマネジャーをしているが、一人暮らしの方、家族がいても支援が難しい方などが、認知症が進行しても安心して暮らせるような西東京市であってほしいと思いながら活動している。

○委員：

当施設でも、身寄りのない高齢者、家族の介護放棄、虐待のケースが多く、難しい課題であると感じている。これらの方を支援していく上で、地域住民の協力、ケアマネジャーの負担への理解、市との連携が必要であると考えている。

○委員：

西東京市に住めて良かったと思えるような市にしたいと思っている。2040年には介護従事者が50万人から60万人足りないと言われている中で、訪問介護事業所では、より多職種、他事業所との連携が必要になる。地域住民とも協力しながら高齢者を見守っていききたいと考えている。

○委員：

病院は身寄りのない方の支援が課題である。また病院は急性期、回復期、慢性期とそれぞれの機能を持ちながら患者支援をしている。その中で介護医療院は慢性期の患者様で医療ケアがある方でもその方らしく生活を送れるよう施設の立場で患者支援をしている。医療の場面では各病院、クリニック、訪問診療機関とそれぞれの立場で高齢者の暮らしを支えられるよう連携強化に取り組んでいる。

○委員：

本日は、介護老人保健施設の代表として参加している。特別養護老人ホームは、入所したら最後まで看取ることが一般的だが、介護老人保健施設は、病院から在宅生活への復帰のためのリハビリなど、生活を支える機能がある施設である。これからも施設への理解を深めていただくことが重要である。

○委員：

訪問診療専門のクリニックで医師として在宅医療に関わっている。地域包括ケアシステムの構築の中で、医療と介護の連携はずっと行われてきたが、本当の意味での地域包括ケアシステムとして、市民の方々との連携、顔の見える関係性づくりを目指す機会として当協議会に関わっていききたい。

○副委員長：

高齢者虐待を専門としているが、虐待件数が一向に減らない。まだまだ科学的根拠が十分でないのではないかと感じている。

○委員長：

認知症の方のケア等の研究を専門としている。新しく認知症施策推進計画を策定する上で、「新しい認知症観」が重要であると感じている。新しい認知症観の理念を共有しながら議論を進めないと、認知症の方のためにならない計画となってしまう。また、ご家族の介護負担について、遠距離介護、ダブルケア、複合的な事例など、表面化されていない方へのケアなども課題であり、調査を進める上で、ぜひ検討していきたいと考えている。

②次回の会議予定

○事務局：

次回の会議の予定を説明。

4 閉会